

<p style="text-align: center;">比較現代文化論 (Views on Comparative Modern Cultures)</p>	<p style="text-align: center;">1年・前期・2単位・選択 3専攻共通・担当 勢田 勝 郭</p>	
	<p style="text-align: center;">〔システム創成工学プログラム 学習教育目標〕 C-1(80%)、A-1(20%)</p>	<p style="text-align: center;">〔JABEE 基準との対応〕 (f) (a)</p>
<p>〔講義の目的〕 現在地球上に存在する様々な民族文化的な対立の究極の形として、人類が二度の世界大戦を経験した二十世紀前半の歴史を、映像教材を用いつつ考察する。</p>		
<p>〔講義の概要〕 各週の講義を前半と後半に分かつ。前半では担当者が主に板書によって講義し、後半ではそれを映像教材で確認する。用いる映像教材はNHKビデオ『映像の世紀』である。</p>		
<p>〔履修上の留意点〕 基本的に「現代世界史」であるが、講義の要点は、文化の対立として紛争・戦争を捉えようとするところにある。その点に留意されたい。また、各週の授業ごとに小課題が課され、夏季休暇中にはレポートが課され、期末には筆記試験が課せられるので、覚悟して受講すること。</p>		
<p>〔到達目標〕 二十世紀前半の歴史について、その大きな流れを知ること。 二十世紀前半の「大事件」について、その背景とその後の歴史に与えた影響を知ること。 毎週、ノートをきちんと取り、各週ごとの小課題を提出すること。 毎週、幾つかの重要事項を指定するので、それが試験に課せられた場合を想定して「まとめ」の文章が書けるようになっておくこと。</p>		
<p>〔評価方法〕 各週ごと小課題(25%)、夏季休暇レポート(25%)、期末筆記試験(50%)</p>		
<p>〔教材・参考書〕 特に指定するものは無い。本科で学習した歴史教科書は有用であろう。</p>		
<p>〔関連科目〕 特に、密接な関連のあるものはないが、言い換えるなら、高専で学習した人文・社会科学系の科目は、全て何らかの関連があるということである。</p>		

講義項目・内容

週数	講義項目	講義内容	自己評価*
第1週	20世紀の幕開け	最初の動く映像、ライト兄弟初飛行、日露戦争等。	
第2週	同上	辛亥革命、第一次世界大戦の始まり等。	
第3週	大量殺戮の完成	第一次大戦を記録したフィルム、アメリカの経済発展等。	
第4週	同上	毒ガスと戦車の登場、ロシア革命とレーニン等。	
第5週	それはマンハッタンから始まった	マンハッタンのビル建設ラッシュ、禁酒法時代等。	
第6週	同上	ムソリーニと黒シャツ党、ウォール街と大恐慌等。	
第7週	ヒトラーの野望	ソ連の経済発展、ナチス台頭、ニュー・ディール政策等。	
第8週	同上	日独伊三国防共協定、第二次世界大戦の始まり等。	
第9週	世界は地獄を見た	真珠湾攻撃、日系人収容所、ユダヤ人強制収容所等。	
第10週	同上	V1・V2号の開発、広島・長崎の被爆等。	
第11週	独立の旗の下に	立ち上がる孫文、ガンジーの非暴力闘争等。	
第12週	同上	延安の毛沢東、ベトナムのホー・チ・ミン等。	
第13週	勝者の世界分割	ヤルタ会談の3巨頭、大戦終了に沸く戦勝国等。	
第14週	同上	極東国際軍事裁判、2つのドイツ、朝鮮戦争勃発等。	
第15週	特別講義	期末試験対策	
試 験			

* 4：完全に理解した，3：ほぼ理解した，2：やや理解できた，1：ほとんど理解できなかった，0：まったく理解できなかった。
 (達成) (達成) (達成) (達成) (達成)